

水泳ニツポン・ 中期計画2017-2024

(2017年度 進捗報告)



センターポールに日の丸を!



2018年6月

公益財団法人日本水泳連盟

■目的

2020年・2024年に向けた、
水泳ニッポンのより一層の改革・発展

■ターゲット年：2020年・2024年

2020年東京五輪と2大会先の五輪を見据えた強化推進
～スポーツ庁「鈴木プラン」と連動～

日本水泳連盟創立100周年(2024年)
～新時代に向けて～

■ポイント

スポーツ庁「第2期スポーツ基本計画」に基づき策定
理念・使命・行動指針を明文化
4戦略＋8アクションプランで構成

■理念

水泳を通じて、国民の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する

■使命

強化：センターポールに日の丸を！

（競技力向上に努め、センターポールに日の丸を掲げ、人々に勇気と希望を与える。）

普及：国民皆泳

（水泳の普及に努め、国民皆泳を実現し、人々の健康保持・増進と水難事故防止に貢献する。）

■行動指針

競技力の更なる高みを目指す
水泳の楽しさと喜びを伝える
水泳を通じた教育と交流の輪を広げる
水泳ニッポンの歴史と伝統を明日へつなぐ

■現状分析

プラス要因

マイナス要因

強み (Strengths)

- ・高い競技力
- ・水泳ニッポンの歴史と伝統
- ・競技の多様性
- ・命を守るスポーツ

弱み (Weakness)

- ・人材の育成
- ・偏った収益構造
- ・アマチュア組織体質
- ・情報化社会への対応の遅れ

機会 (Opportunities)

- ・生涯スポーツの定番
- ・全国の加盟団体とSCの存在
- ・日本古来の水泳文化
- ・スポーツ庁設置、初代長官輩出
- ・国際大会の連続開催

脅威 (Threats)

- ・人口減少
- ・学校体育(水泳授業)の後退
- ・日本経済の財政悪化
- ・国際影響力の低下

内部環境

外部環境

■戦略

【戦略2017①】

競技力向上による水泳人気、水泳人口の更なる拡大： 水泳ファミリー拡大計画

人気・実力・歴史・伝統を兼ねた強みと国際大会の連続開催でメディア露出が増える好機を活かし、「する」「みる」「ささえる」水泳ファミリーを全国に拡大する。

【戦略2017②】

「泳げない子供・大人」を減らす環境整備： 地域内温水プール拠点化構想*の推進と学校体育（水泳授業）の充実

関係省庁、自治体、スイミングクラブと連携した地域内温水プール拠点化構想の推進と、安全をより重視した学校体育（水泳授業）の充実に努め、命を守る防災スポーツとして「泳げない子供・大人」を減らす。

【戦略2017③】

組織基盤の強化： 幅広い分野からの人材の登用と育成

幅広い分野からの有能な人材登用および若手を中心とした人材育成を行ない、少数精鋭の組織基盤を強化する。

【戦略2017④】

データベースの再構築・再整備： 2次利用による次世代の収益基盤整備へ

情報化社会に適応可能な多面的なデータベースとして再構築し、現状の課題解決（登録・エントリー・課金・記録管理の改善）に加えて、2次利用による新たな収益基盤としても整備する。

*地域内温水プール強化拠点構想：

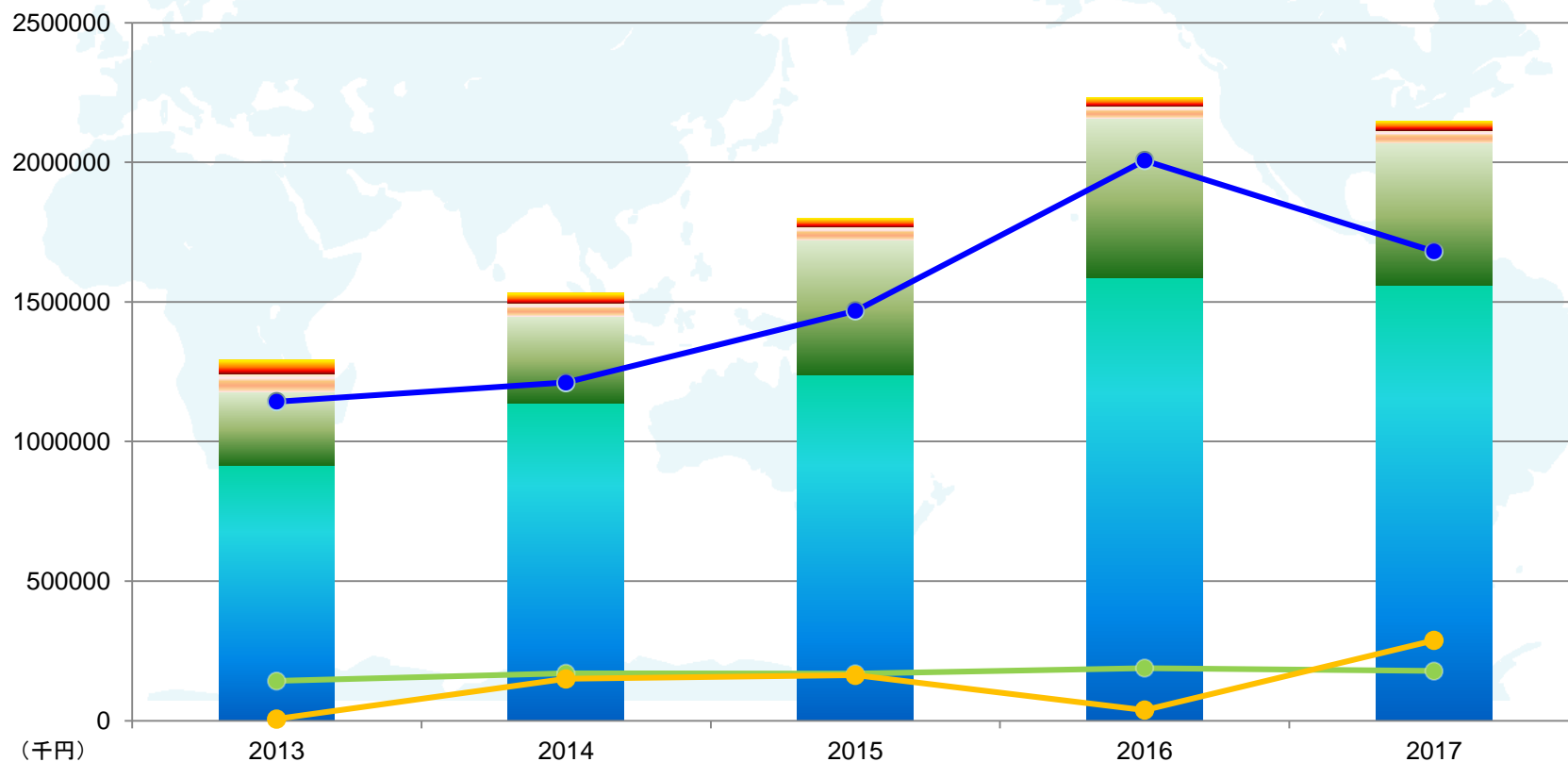
地域内に1つ、屋内温水プールを設置する構想。地域内の学校の授業や部活動、地域住民の健康増進やリハビリに通年使用。拠点化により総工費を削減し、稼働率を上げる。指定管理者制度を活用して、運営は民間に委託。指導者や運営スタッフの募集で、地域雇用の促進と水泳競技者のセカンドキャリアの場を創出。災害時にはプールの水を生活用水として活用する防災センター機能を兼備。

財務状況

2017年度財務実績
(単位:百万円)

■事業収益1,558 ■補助金収益509 ■寄付金収益45 ■その他収益34 ■収入合計2,146
 ■事業費1,681 ■管理費177 ■支出合計1,859 ■評価損益等調整前当期経常増減額287

■ その他収益 ■ 寄付金収益 ■ 補助金収益 ■ 事業収益 ● 事業費 ● 管理費 ● 評価損益等調整前当期経常増減額



【1】日本代表強化：①競泳

【戦略2017①】

2020

2024

目標

- ①複数の金メダル獲得、10個以上のメダル獲得
- ②29種目以上の入賞

- ①複数の金メダル獲得、10個以上のメダル獲得

2017年度 主要大会	金	銀	銅	総括
世界選手権	0	4	3	世界選手権では、リオ五輪経験者によるメダル獲得が収穫も、金メダルなしが課題。 ユニバーシアード、世界ジュニア選手権では、若手を含む多くの選手が国際舞台を経験。
ユニバーシアード	8	5	5	
世界ジュニア選手権	6	3	6	



【1】日本代表強化：②飛込

【戦略2017①】

2020

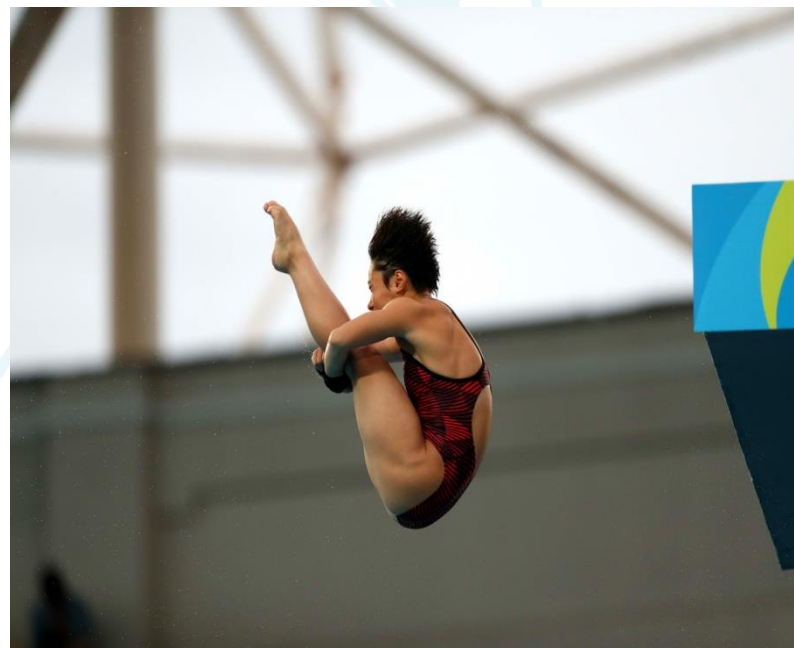
2024

目標

①女子高飛込メダル獲得
②シンクロナイズド3種目入賞(女子高飛込、男子飛板飛込、女子飛板飛込)

①女子高飛込以外の他個人種目メダル争い
②シンクロナイズド入賞及びメダル争い

2017年度 主要大会	金	銀	銅	総括
世界選手権	0	0	0	世界選手権では、板橋の7位入賞が収穫も、男子の強化が課題。
ユニバーシアード	0	0	1	ユニバーシアードでは、団体に銅1個を獲得。
アジアエージ選手権	1	7	5	アジアエージ選手権では、男子のみ世界ユース選手権出場権を獲得。女子の強化が課題。



【1】日本代表強化：③水球

【戦略2017①】

2020

2024

目標

予選リーグ突破～メダル獲得挑戦

ベスト8進出～メダル獲得

2017年度 主要大会	金	銀	銅	総括
世界選手権	0	0	0	世界選手権では、男子が予選を突破し、過去最高の10位。
ユニバーシアード	0	0	1	ユニバーシアードでは、女子が3位となり史上初となるメダルを獲得。
ワールドリーグ インターコンチネ ンタルカップ	0	0	0	ワールドリーグでは、男女ともにスーパーファイナルに進出。



【1】日本代表強化：④AS

【戦略2017①】

2020

2024

目標

デュエット、チーム 銀メダル獲得

メダル獲得

2017年度 主要大会	金	銀	銅	総括
世界選手権	0	0	2	世界選手権では、銅2個に留まり、五輪種目でウクライナに敗れたことが大きな課題。 2020以降を見据えた次世代強化として、スイスオープンではBチームが、アジアエージ選手権ではジュニアチームがそれぞれ優勝。
スイスオープン	7	0	0	
アジアエージ選手権	7	4	2	



【1】日本代表強化:⑤OWS

【戦略2017①】

2020

2024

- 目標
- ①メダル獲得
 - ②フルエントリー

- ①2大会連続メダル獲得
- ②2大会連続フルエントリー

2017年度 主要大会	金	銀	銅	総括
世界選手権	0	0	0	世界選手権では、男女とも入賞に至らず。海外選手の序盤からの積極性とレース全体の高速化への対応が課題。
ユニバーシアード	0	0	0	ユニバーシアードでは、男女ともに入賞。
全豪選手権	1	0	0	全豪選手権では、優勝を含む全種目で入賞。



【2】指導者・審判

【戦略2017①】

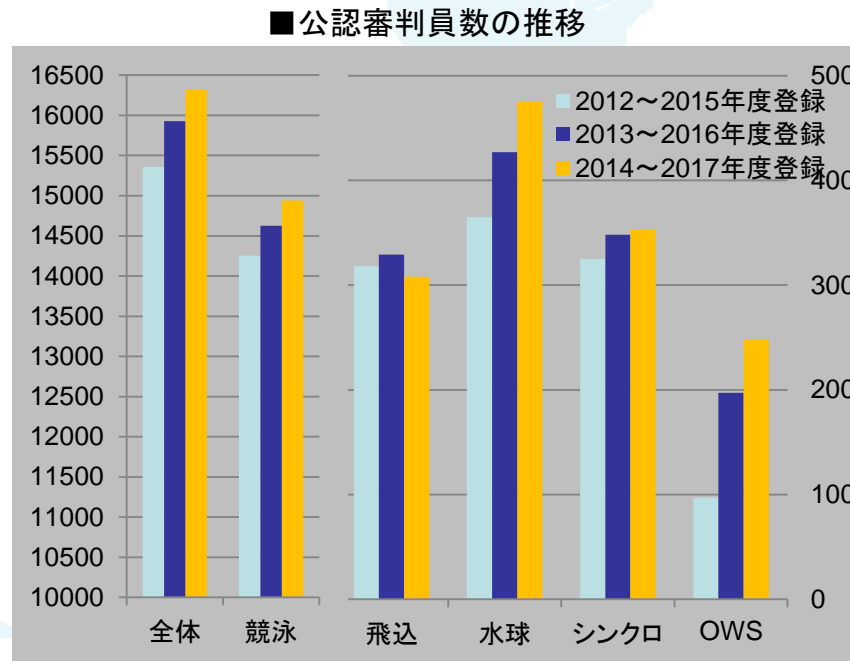
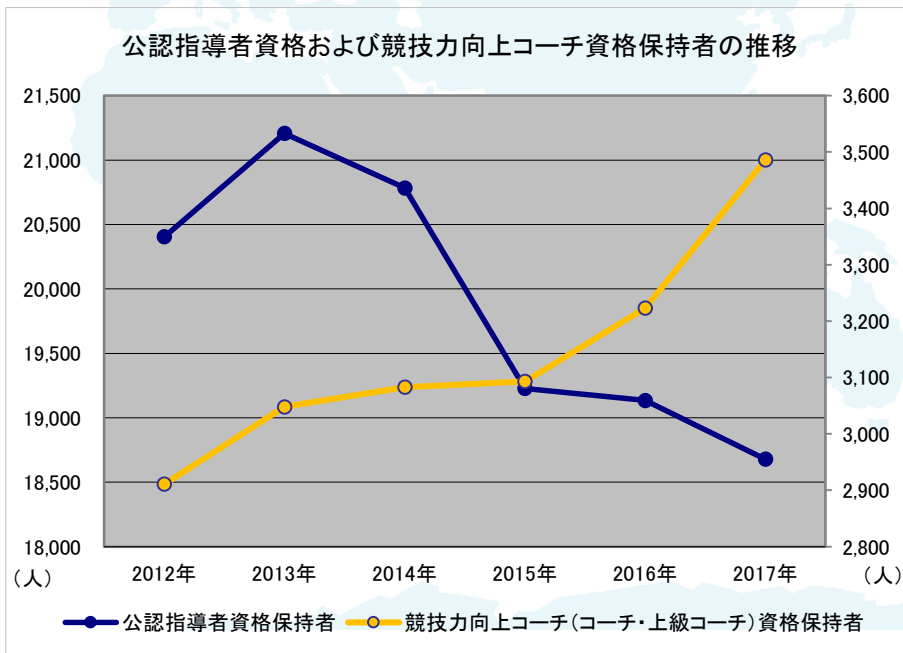
【戦略2017②】

2020

2024

目標
公認指導者：20000人
公認審判員：16000人

公認指導者：21000人
公認審判員：17000人



(単位:人)

【3】競技会・マーケティング

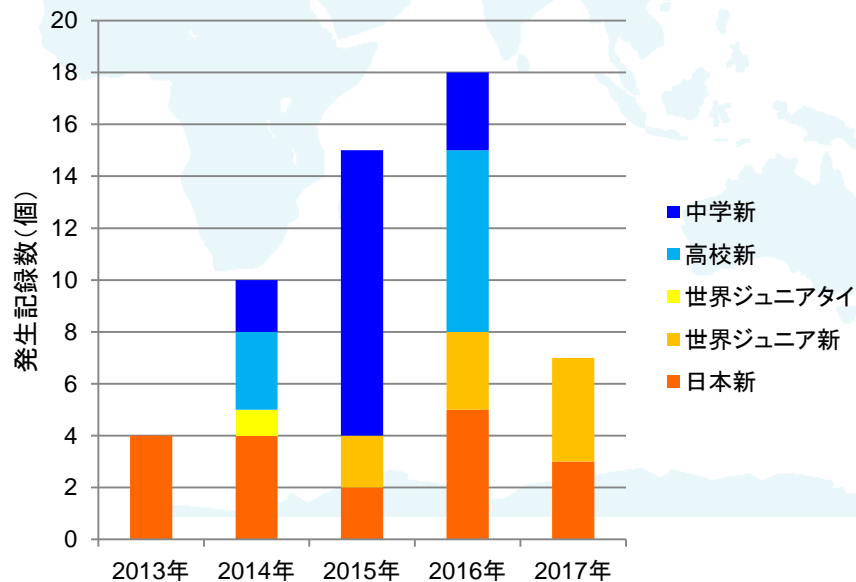
2020

2024

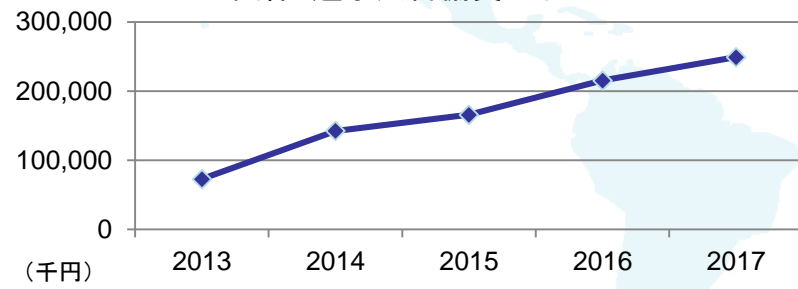
目標 競技会：国内競技会の充実
 マーケティング：ブランディング強化

目標 競技会：国内競技会の充実
 マーケティング：事業の強化

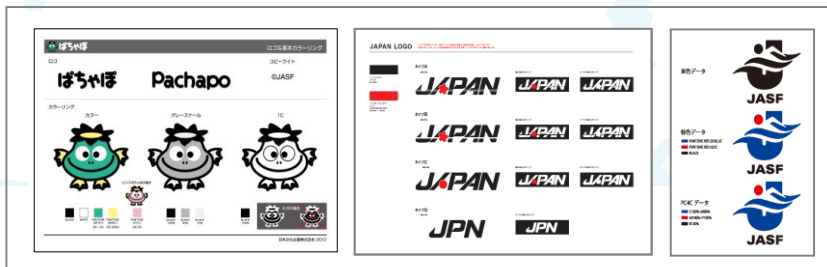
競泳日本選手権における発生記録の推移



団体・選手広告協賛金収益



■ブランディングの強化 = 知財管理の徹底



【4】普及

【戦略2017①】

【戦略2017②】

2020

2024

目 ①国民皆泳の実現
標 ②水泳ファミリーの拡大

①国民皆泳の実現
②水泳ファミリーの拡大

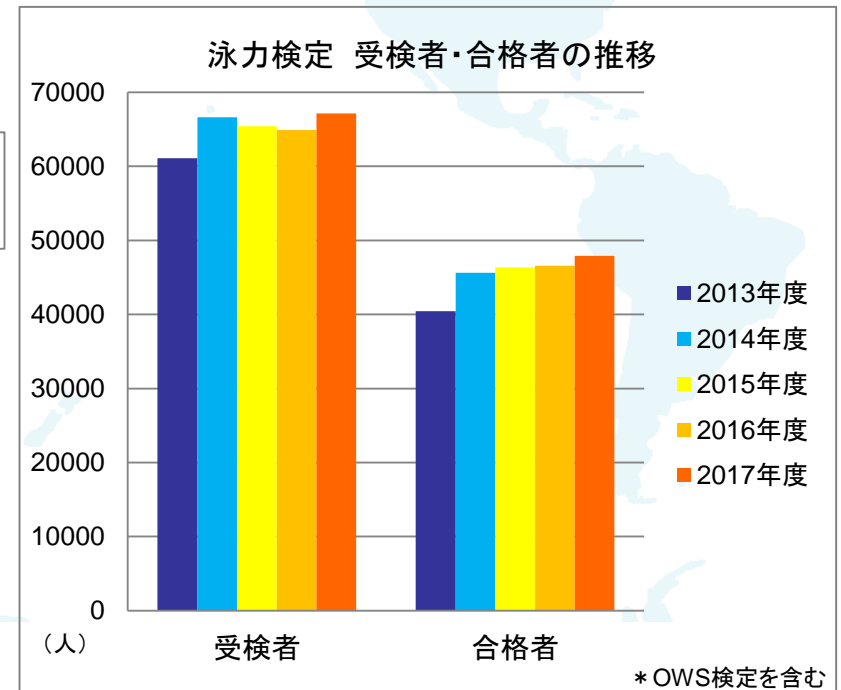
■水泳3団体による「泳ぐ機会」の創出検討(案)

登録者数	選手	一般愛好者
社会人 13374人	日本社会人選手権	ジャパンマスターズ 日本スポーツマスターズ
大学生 10711人	日本学生選手権 (インカレ)	同好会インカレ
高校生 38821人	日本高等学校選手権 (インターハイ)	泳ぐ大会がない
中学生 54277人	全国中学校 水泳競技大会	泳ぐ大会がない
小学生 54817人	JOCジュニアオリン ピックカップ	泳ぐ大会がない

マスターズ登録者数 43039名

本連盟
マスターズ水泳協会
SC協会

*登録者数は2015年度の数値



【5】組織基盤

【戦略2017③】

【戦略2017④】

2020

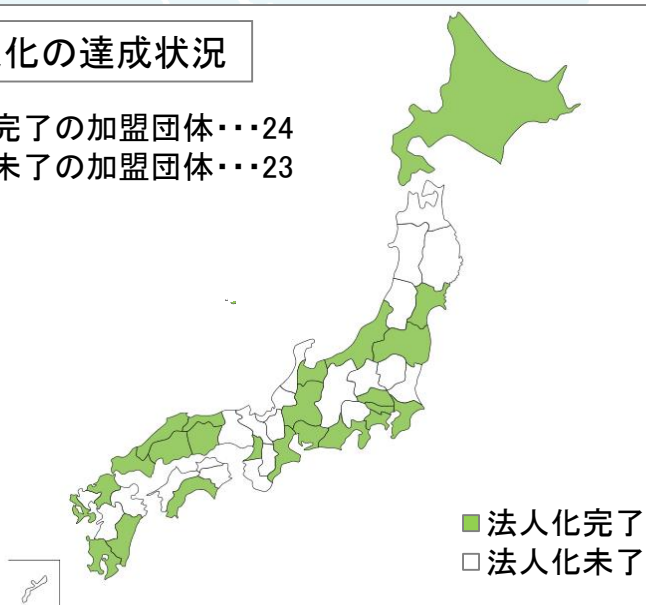
2024

- 目標
- ①組織基盤の強化
 - ②全加盟団体の法人化達成

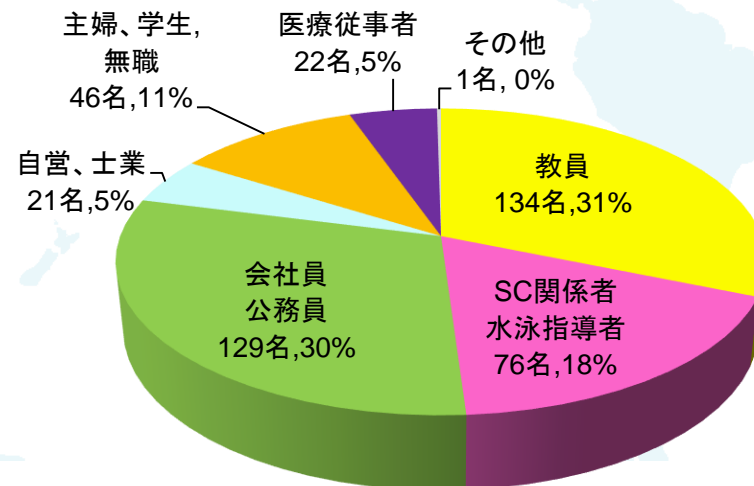
- ①組織基盤の強化
- ②全加盟団体との理念・使命・行動指針の共有

法人化の達成状況

法人化完了の加盟団体・・・24
法人化未了の加盟団体・・・23



専門委員429名の属性



(2017・2018年度 日本水泳連盟 委員名簿より)



センターポールに日の丸を!



公益財団法人日本水泳連盟